# 第5回 地区別懇談会【薩摩瀬地区】

日時:令和3年9月18日(土)18:30~

場所:西瀬小学校体育館

### 次第

- 1. 開会挨拶
- 2. 地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明
  - (1) 地区別懇談会の振り返りと情報提供【資料1】【資料2】【資料3】
  - (2) 薩摩瀬地区 復興まちづくり計画(案) について
    - ①薩摩瀬地区 復興まちづくり計画(案) 【資料4】
- 3. 地区ごとの話し合い
  - (1) 復興まちづくりの具体的イメージや手法案について
    - ○取組み方針、具体の取組み、イメージの更新案について、問題はないか?
    - ○流域治水プロジェクトが完了するまでの間、どのように地域の安全性を高めるか?
      - どこの避難路の整備が必要か、どこに避難場所を整備するとよいか?
    - ○地区全体の活性化に向けて重点的に協働して取組むべき施策やアイデアはないか?
  - (2) 今後の進め方、次回以降について
- 4. 全体共有
- 5. その他
- 6. 閉会挨拶

### 【資料】

・資料1:地区別懇談会だより第3号

・資料2:人吉市復興まちづくり 進め方と本日の内容について

・資料3:地区別懇談会中間報告会まとめ

・資料4:薩摩瀬地区 復興まちづくり計画(案)

### 【薩摩瀬地区】『復興まちづくりの方向(修正案)』について ~第4回懇談会の意見概要②~

口は方向案の柱です。黄色網掛け箇所が第4回地区別懇談会における参加者の主な意見です(※決まった内容や事実確認をした内容ではありません)。

Bri40 7: 44		日什の取組 7. /安\
取組みの柱		具体の取組み(案)
①被災者のくら し再建とコミュ ニティの再生	【住まい再建】	□安全性を高める建て方の誘導 ・建物1階のピロティ化、浸水深以上の居室の確保、建物構造の耐水化。 ※土地利用状況、地質・地盤状況、再建方法の意向等を踏まえ、広域的な広がり等を調整しながら推進。※水害のみならず、耐震化にも留意。 ・既に住宅が建っている(リフォーム、建て直し)。町内で話し合って一定の広さの嵩上げをどうするか考えることは無理だと思う。行政が主導して方針を出してくれるなら別だが、お金の問題もある。個人単位での嵩上げは大丈夫だと思う。・仮設住宅には2年しかいられない。仮設入居の期限が短い。 ・住民からは、嵩上げや集約してピロティ化等の話は出てこない(聞いたことがない)。
	【コミュニティ再生】	□公民館の再建、防災機能強化 ・現公民館の防災機能を強化、地域の結束力を高める取組みの推進。 ・公民館を作ったからといって人が入ってくる、集まってくるという事はないと思う。仮設公民館を作っているが、ほぼ誰も来ないのが現状。具体的な話、策を提示してもらわないとコミュニティ再生は厳しいと思う。
②力強い地域経	【生業再建】	口農地の再生意向調査と再生農地の検討
変響に負けないまちづくり	【治水・土砂災害対策】 【復興まちづくり】	・継続意向を確認のうえ、土地の集約化等を行い、持続的な営農を支援。 □地域特性を踏まえた地区防災計画、マイ・タイムラインの作成 ・地区の災害リスクを踏まえた地区防災計画の作成。 ・防災訓練等の着実な作成と実行に資するコミユニティを通じ取組みの推進。 ・国・県・市の努力で治水対策は進んでいくと思うが、住民のほとんどは仮設住宅にいるので、皆で集まる機会がない。帰ってきたいが、どうなるのかがまだ分からないので、集まってコミュニティを作ることができない。どういう事に対し我々の意見を出し、聞いてもらうのか、が最初ではないか。住む場所の安全性が担保されないことには、安心して協議もできない。 □防災情報の伝達機能強化 ・各世帯への戸別受信機の配布(市より、6月から順次配布)。 □緊急避難(災害公営住宅兼避難ビル等)の整備・浸水深以上の高さに避難場所がある避難ビル機能を持った災害公営住宅の整備等。・今年、5月の雨の時に町内を見て回ったが、皆避難していた。中には町内会長に電話で避難場所を伝えて避難した人もいた。 □消防団の担い手育成、自助共助の避難体制の構築・町内支援ネットワークの「サポーター」の拡充。・発災後を想定し、避難時に積載車を安全なところへの避難。・消防団の担い手育成、コミュニティ強化、若手の定住化。・今年の5月と7月に大雨や土砂災害による避難の発令があり、道路拡幅の実現はすぐには難しい。今後、避難する場合、村山台地の高台へ避難する人が多い。道路拡幅の実現はすぐには難しい。今後、避難が多くなると思うので、交通規制や危険区域への立入りを規制する避難方法もあると思う、球磨川を見据えた避難をしていると思うが用水路や田んぽの水も危険(水位が急に上下する)であり、注意する必要がある。早めに安全な避難の呼びかけや、避難かると思う、球磨川を見据えた避難をしていると思うが、用水路や田んぽの水も危険(水位が急に上下する)であり、注意する必要がある。早めに安全な避難の呼びかけや、避難が多くなると思うので、発難が多くなると思うであり、注意する必要がある。早めに安全な避難の呼びかけや、避難が高を進を提案したい。 □雑練的・定期的な避難訓練の実施。・遊難路の整備を提案したい。 □和監対策の推進・促進 ・放水路、浸透・雨水貯留施設等による内水対策を進め、被害の軽減や避難時間の確保を図る。 □流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下 ・国主導の広域治水の方向性を共有、プロジェクトに協力支援する。

#### ◇お問い合わせ◇

人吉市役所 復興局 復興支援課 〒868-8601 熊本県人吉市下城本町 1578-1 Tel:0966-22-2111(内線:8893) Fax:0966-24-7869 E-mail:fukkousien@hitoyoshi.kumamoto.jp これらに関する情報は、市ホームページにも掲載しています。ホームページをご覧になれない人はお問い合わせください。

# 地区別懇談会だより

Vol.3

薩摩瀬地区

~みんなで取り組む、人吉市の復興まちづくり~

### 『地区別懇談会(第4回)』を開催しました

甚大な被害や治水対策による影響が大きいなど、**地区でまとまって問題解決に取り組む必要性の高い地区を「重点地区」**として位置づけ、それぞれの地区ごとに**「地区別懇談会」**で話し合いを進めています。

薩摩瀬地区の対象地区は、宝来町、相良町、上薩摩瀬町、下薩摩瀬町、下城本町です。

### ◆第4回地区別懇談会

- 1 治水対策に関する国・県からの説明
- 2 地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明
  - ・地区別懇談会の振り返りと情報提供
  - ・懇談会意見を踏まえた復興まちづくりの方向案(修正案)について
- 3 地区ごとの話し合いと全体共有
- ・復興まちづくりの具体的な取組み方向案について
- 4 今後の進め方について





7月28日(水)18時半から、西瀬小学校体育館で開催しました。(参加人数:27名 ※左岸地区と合同開催)

# 復興まちづくり計画の策定に向けて

地区別懇談会での検討をもとに、10月頃を目途に具体的な復興まちづくりの取組をまとめた「復興まちづくり計画」を策定します。

### ◆地区別懇談会の<u>参加方法</u>

・対象地区にお住まいの方や勤務されている方など、どなたでも参加できます。

※可能な範囲で、継続的な話し合いに参加いただきます。

・参加申込は随時受け付けておりますので、本紙面末尾の復興支援課までお問合せください。 多くの方のご参加をお待ちしております。

◆地区別懇談会の進め方

次回の開催予定:第5回 9月18日(土)18時30分より

次回のテーマ予定:復興まちづくり計画(素案)について

会場:西瀬小学校体育館

(注) 地区別懇談会については、新型コロナウィルス感染症の状況等で、変更する場合があります。

#### ◇復興まちづくり計画とは

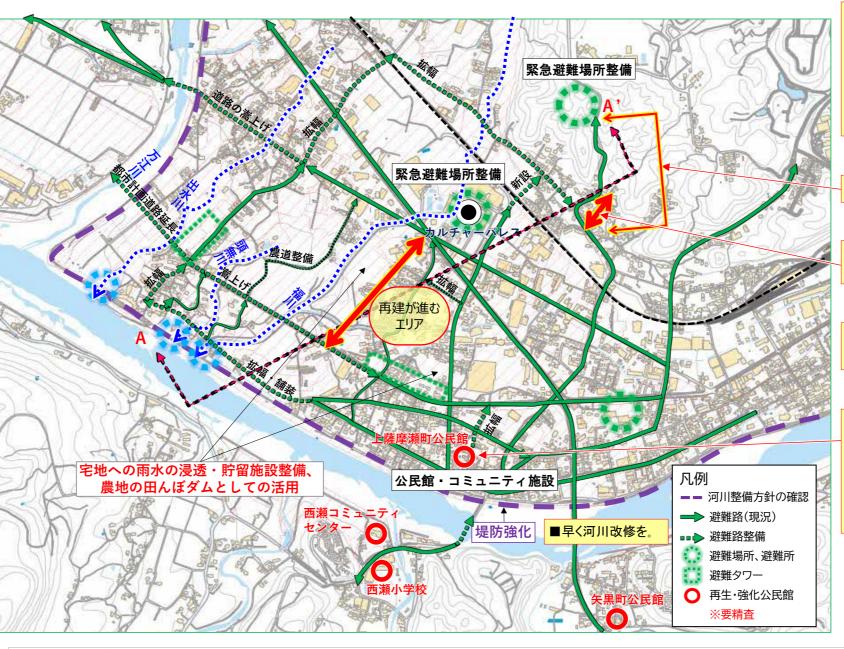
- ・復興計画を実現するために取り組むべき内容を示すものです。
- ・特に被害の大きい特定地域(重点地区)などを対象に、各地域の具体的な計画づくりを行います。
- ・住民主役の計画づくりに対して、行政が支援し、計画策定をめざします。
- ・計画期間は、令和4~9年度の概ね6年間。(令和3年度からの一部実施も想定)
- ・本計画に基づき、関係者調整含めた精査や具体化検討を進め、段階的な実現をめざします。

参加

募集中

**黄色網掛け箇所**が第4回地区別懇談会の参加者の主な意見です(※決まった内容や事実確認をした内容ではありません)。

- ■地区南部の川べりの住民と、地区北部の住民とでは、災害に対する復興のスピードも違うし、意識も違う。地区北部は、まわりはほぼ大規模半壊だったが、リフォームがほぼ終わり、日常が戻っている。川べりは今、公費解体が始まり、復興に関し1年間待ったけれど、これからどうにかしなければならない。状況の異なる人がいるので、一括りに同じように考えると、気持ちの中でかなりのズレが生じる。
- ■避難路、垂直避難をする施設整備など、優先すべきは、川べりの人達の気持ちだと思う。復興まちづくりを進めていく人が理解して、きっちり区別する必要がある。
- ■今年は既に2回避難指示が出ている。今から台 風シーズンになると、また避難指示が出ると思
- ■この間の避難時は、周りの人はサッと避難して いた。
- ■消防署の所に住んでいる。 周りの再建は進ん でいるが、 嵩上げやピロティ化はしていない。
- ■新しい避難路整備が必要ではないか。
- ■下薩摩瀬町地域学習センターは改修しただけで、避難場所にはならない。
- ■土地の集約等を進めるとした場合、所有者へ交渉・働きかけなど、行政がしてくれるのか。
- ■既にリフォームや建替えをしている所も多く、今から住民に要望を聞くのは遅いのではないか。 現実的ではない。
- ■仮に土地の嵩上げをするとした場合、確実に実施できるのか。2年待って「できませんでした」で、それから再建していては、復興がドンドン遅れる。
- ■耕作放棄地や農地であっても所有者がいるため、所有者の判断を無視することは出来ない。
- ■自助も重要だが、公助の「公」は国・県・自治体の「公」ではなく、周りの皆さんであり、コミュニティとして力を合わせましょうという「公」。そこが強調されているような気がする。例えば消防団や町内会長。これらに頼り過ぎではないか。公的組織・自治体職員の増員も必要ではないか。



- ■避難は結構プレッシャーになり、雨が降るたび に記憶が蘇る。これをあと何年続けるのか。今 の住まいで安全に住める方法を模索したい。
- ■水位が上らないように、水が来ないように、なる べく早く対策を講じてほしい。数年のうちに安全 に住める施策はないのか?もっと河道掘削でき ないのか?市の施策として堤防嵩上げ等の施 策が必要ではないか?
- ■避難路の安全性向上(土砂災害リスクなど)。
- ■桜木団地~人吉第二中学校へ上がる所は道 が狭く、土砂災害警戒区域。
- ■公的補助があれば、宝来町会館も避難場所として使えるようにしてはどうか。
- ■公民館への補助について、リフォームは上限 500 万円の 3/4、建替えは上限 2,000 万円の 3/4 が決定事項として聞いており、リフォームに 決めた。
- ■2階建てにできる話が出てくれば、町内で話し合ったリフォーム計画を覆さなければならない。1 年間作ってきた計画を白紙に戻す必要がある。



# 薩摩瀬地区 復興まちづくり計画(案)【方針・取組み】

# 地区の将来像:

地区の行来隊・					
取組みの柱	地区の主な課題 (地区の復興まちづくりに向けた主な課題)	<b>取組み方針</b> (課題解決のための取組み方針の柱)	具体の取組み(案) ※実現化に向け、今後検討が必要		
①被災者のくらし再建と コミュニティの再生 【住まい再建】 【コミュニティ再生】	<ul> <li>□住まいの再建における安全性の向上</li> <li>・全壊した住まいが多数、土砂の堆積が残存。</li> <li>・避難した人が完全にまちに戻っていない</li> <li>・嵩上げ等、治水対策の状況を踏まえた再建方針が必要。</li> <li>・当地区での再建を望んでいる、また基本は当地区に住み続けたい。(金銭的な理由もある)</li> <li>・避難を機に市外に住んでいる人も多い、そういった人の意向がわからない。</li> <li>・コミュニティ機能を担う集会所を失った。</li> </ul>	<ul><li>□公民館の再建、コミュニティの再生</li><li>・安全性を確保したうえで、集まって楽しいコミュニティ再生に資する施設の確保。</li><li>・コミュニティ機能を担う公民館の再生。</li></ul>	<ul> <li>□安全性を高める建て方の誘導(例)</li> <li>・建物1階のピロティ化、浸水深以上の居室の確保、建物構造の耐水化。</li> <li>※現地再建を基本とし、耐水構造となる建て方を緩やかに誘導</li> <li>※土地利用状況、地質・地盤状況、再建方法の意向等を踏まえ、広域的な広がり等を調整しながら推進。</li> <li>※水害のみならず、耐震化にも留意。</li> <li>□公民館の再建、防災機能強化</li> <li>・現公民館の防災機能を強化、地域の結束力を高める取組みの推進。</li> <li>※利活用される公民館の再生</li> </ul>		
<ul><li>②力強い地域経済の再生 【生業再建】</li></ul>	□ <b>農地の再生と農業従業者の支援</b> ・農地の再生が困難。 ・生業を継続できる住民はすでに移転してしまった。		□ <b>農地の再生意向調査と再生農地の検討</b> ・継続意向を確認のうえ、土地の集約化等を行い、持続的な営農を支援。		
③災害に負けないまち づくり 【避難対策】	□安全な避難ルートの確保 ・国道219号が濁流状況だった。 ・民地の敷地を抜けて避難した。 ・御溝川等の内水氾濫により、通れない道がある。 ・避難施設の確保・改善 ・歩いて行ける近くに避難施設があると良い。 ・一次避難場所から自動車で避難するには駐車場が足りない。 ・高い建物がほとんどない。 □安全な避難方法の確立 ・防災無線の声が聞こえなかった。 ・自動車の運転ができない歩くのも大変な高齢者が速やかに避難しづらく、要支援者への対応が必要。 ・理めの避難できる体制づくりが必要。 ・避難したかどうか確認する安否確認方法が必要。	ト同行避難が可能な避難所など、機能強化を図る。 <b>緊急避難場所の整備</b> ・徒歩圏内での緊急避難場所を整備・指定する。 (災害公営住宅兼避難ビルの整備等) <b>自助共助の避難体制の構築</b> ・自立的避難が困難な高齢者等、要配慮者を中心として、自身の身の安全も守ることができる仕組みや体制づくりを進める。 <b>消防団の組織の強化、人材育成</b>	□消防団の担い手育成、自助共助の避難体制の構築 ・町内支援ネットワークの「サポーター」の拡充。 ・発災後もすみやかに運搬作業できるように避難時に積載車を安全なところへ移動。 ・消防団の担い手育成、コミュニティ強化、若手の定住化。		
【治水・土砂災害対策】 【復興まちづくり】	□ 球磨川本川の氾濫対策 ・堤防の損傷と氾濫流による家屋倒壊が発生。 ・球磨川本川の対策と合わせて □ 万江川等の支川の氾濫対策 ・万江川等の支川の対策も必要。 □ 小河川の氾濫対策	□氾濫対策の推進・促進 ・放水路、排水機場等耐水化、低未利用地を利用した 浸透・雨水貯留施設等による内水対策を進め、被害 の軽減や避難時間の確保を図る。 □流域治水プロジェクトによる本川・支川の 水位の低下			

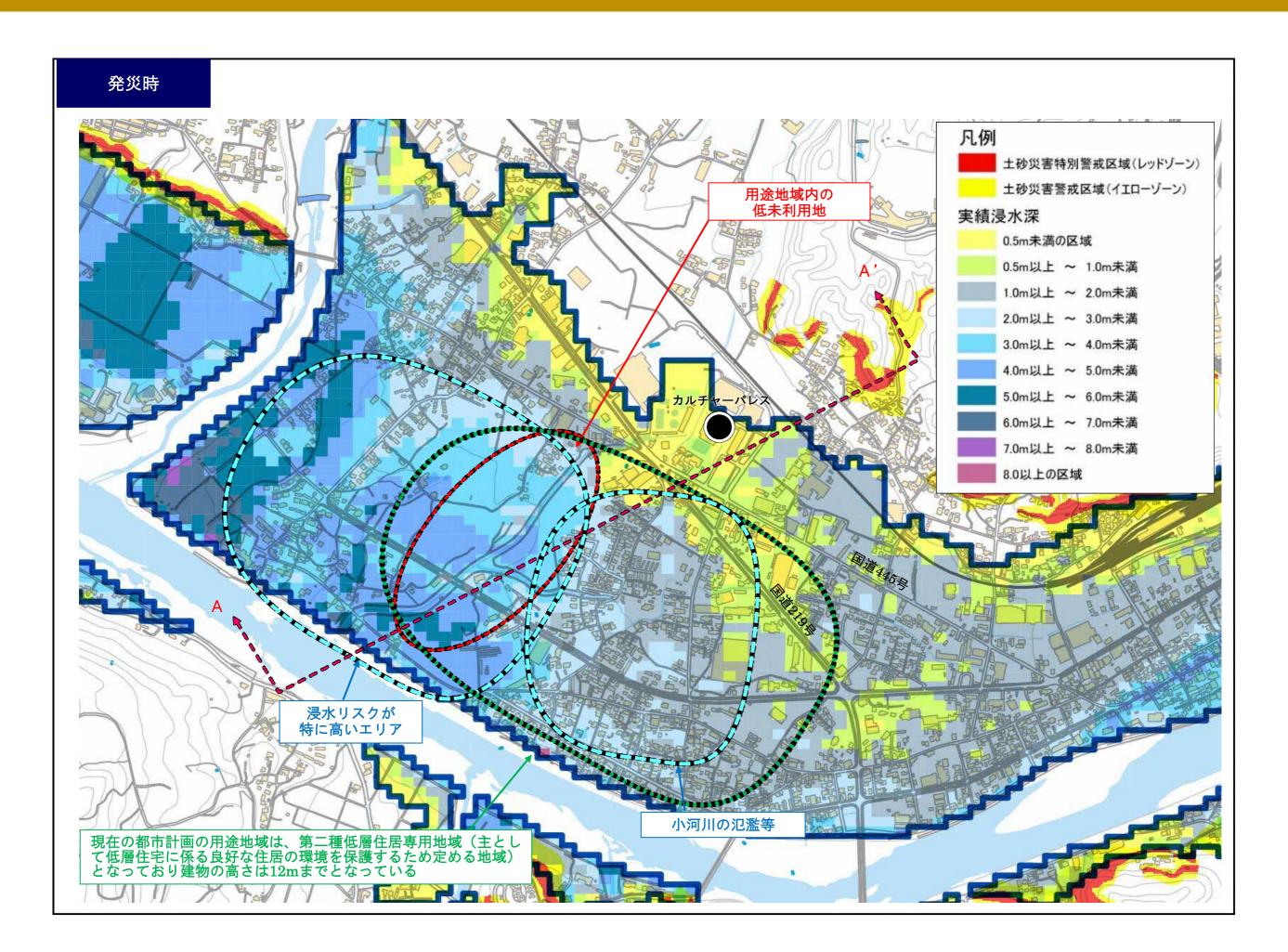
※これまでの地区別懇談会の意見を踏まえた、復興まちづくり計画(案)です。具体の取組み(案)は、決定事項ではなく今後の関係者調整含めた具体化への精査・検討が必要です。

・御講川等の小河川が氾濫、球磨川本川の越水より先に浸 ・国、県による流域治水の取り組みと連携したまちづ

くりの実施

※<mark>前回の意見等を踏まえた更新箇所</mark>

# 薩摩瀬地区 現況 ・ 令和2年7月豪雨の被害 ・ 災害危険性



# 薩摩瀬地区 復興まちづくり計画(案)【広域図・避難ルート図】

(避難タワー)

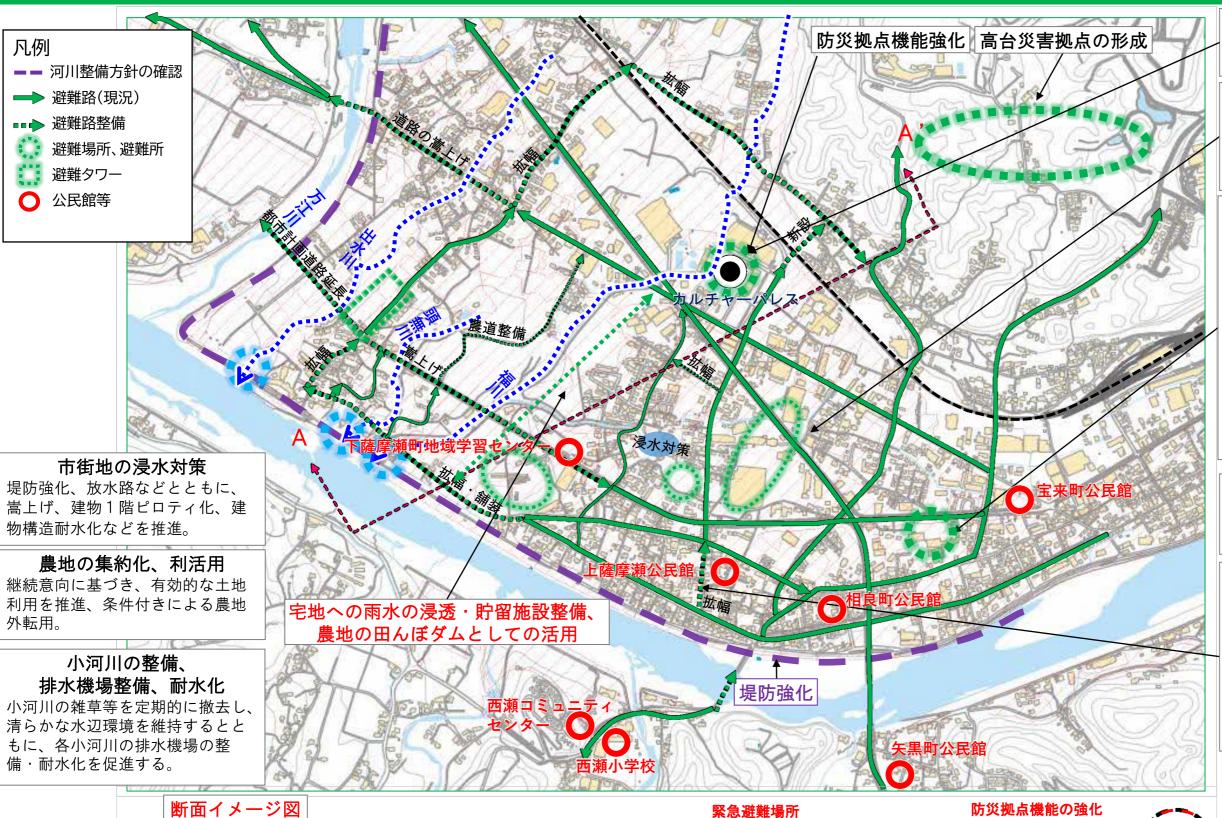
都計道 の整備

市街地の浸水対策

カルチャー

沿道 国道445号 沿道 パレス JR

商業施設



ピロティ構造

復興後

県道 球磨川 排水機場

### カルチャーパレス

防災拠点としての安全性、機能拡充を推進、 市街地からの避難経路を確保。

# 大型量販店の防災施設利用

自治体と協定を結び、大型量販店のBCP等 として、災害発生時における商品調達・物 流網機能、緊急避難場所として施設を利活 用(要調整)

### 緊急避難場所整備

避難路沿いに、逃げ遅れた際に逃げ込める 想定最大規模以上の避難タワー・避難ビル を整備



災害公営住宅(岩手県陸前高田市下和野地区)

## 公民館・コミュニティ施設

交流の場、防災機能の拡充に配慮しつつ、 集会所を復旧

# 避難路整備

早めの多方向避難が可能となるよう避難路 となる道路の拡幅・嵩上げ。



上薩摩瀬公民館前 市道(離合困難)

※これまでの地区別懇談会の意見を踏まえた、 復興まちづくりのイメージ(案)です。具 体の取組み内容は、決定事項ではなく今後 の関係者調整含めた具体化への精査・検討 が必要です。

高台 災害拠点 避難所 Α'

# 薩摩瀬地区 復興まちづくり計画(案) 【地区整備方針図】

